

## 2003年欧州の熱波による死者数 (熱中症および過剰死亡による)

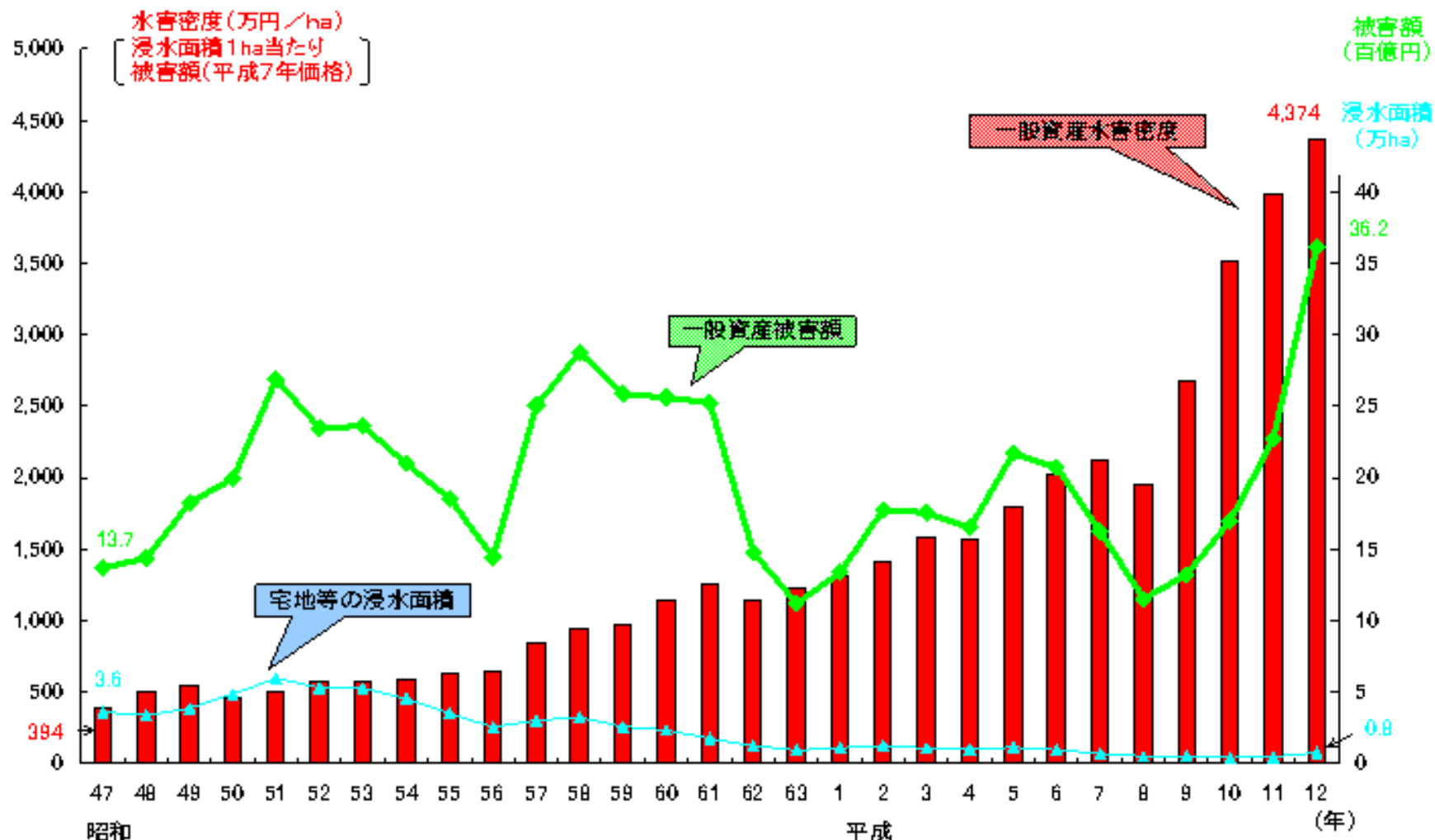
	世界保健機関 (推計、 2004)	EPI(Earth Policy Institute 推計、2003)
フランス	14,802	14,802
ドイツ	—	7,000
スペイン	59*	4,230
イタリア	3,134	4,175
ポルトガル	2,106	1,316
英国・ウェールズ	2,045	2,045
オランダ	—	1,400
ベルギー	—	150
総計	22,146	35,118

\*WHOによると6000人以上の過剰死亡がスペインの熱波時に非公式に報告されているが、59人だけが熱波が原因であると認められた。

(世界災害報告2004)

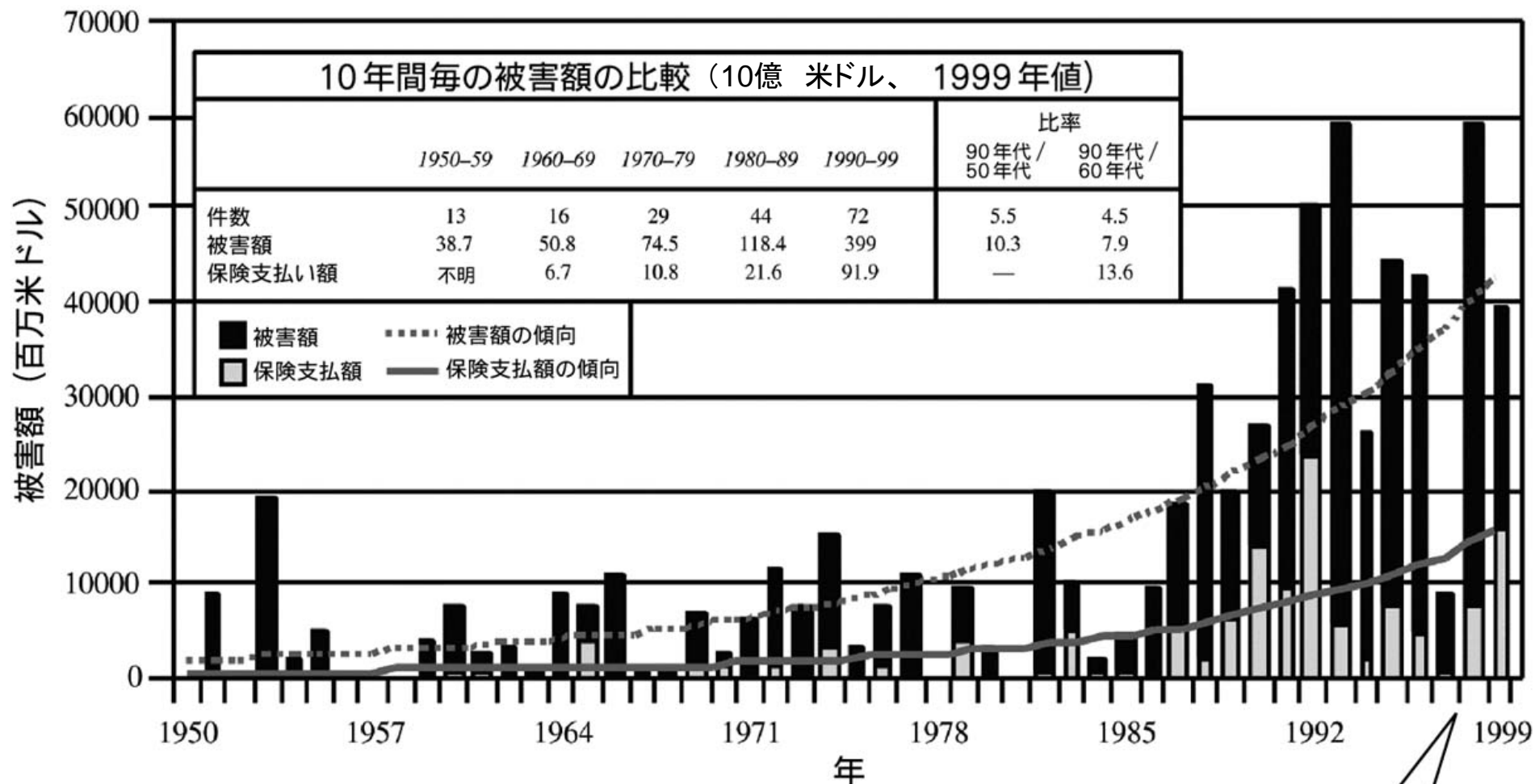
# 一般資産水害密度等の推移

浸水は減っているが、都市化の進展により被害は増大



出典:国土交通省河川局ホームページ

# 異常気象による被害額と保険支払額の推移



- ・経済的な被害額は、40億ドル/年(1950年代)から、400億ドル/年(1990年代)の10倍に増加
- ・保険支払い額は、無視できる額から92億ドルへ増加

被害額は近年に急増している

# まとめ

## 現状の総括

- ・異常気象の発生状況(頻度、強度等)が変化しつつある。人間活動や社会への被害も増加傾向にある。

## 因果関係

- ・異常気象と温暖化との関係については、昨今の個々の異常気象と温暖化との関係についてはまだ不確実性が高いが、両者の関係を指摘する研究事例もでてきた。
- ・一方、気候モデルによる研究から、温暖化すると台風の数は減るが中心風力が増大するなど、温暖化の進行とともに、異常気象の発生の仕方が変化すると予測されている。

## 如何に対処するか

- ・異常気象は一旦発生すると多大な人命や資産に被害を及ぼし、地域経済に影響するだけでなく、国、さらには国際的な影響を及ぼす可能性もある。
- ・温暖化の進行とともに異常気象が増加する可能性が指摘されていることから、温暖化防止のため温室効果ガスの削減を早急に実施するとともに、異常気象の発生に対して脆弱な社会、都市構造を変えて行く**適応策の強化**が必要である。